

# どうしよう

—隠さず正直に—

- 1 学 年 第4学年〔前期〕  
 2 主題名 明るい心で〔1－（4）〕  
 3 ねらい

「ぼく」が、正直に言おうか黙っていようか迷う気持ちを考えることを通して、過ちを素直に認め、明るい心で生きていこうとする実践意欲を育てる。

- 4 資料名 「どうしよう」  
 5 展 開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 うそをつかれたり、ごまかされたりした体験を発表する。 ○ うそをつかれたり、ごまかされたりしたことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつの間にか筆箱がこわれていた。</li> <li>遊びに来ると言ったのに来なかった。</li> </ul>	○ 不誠実な行為をすると相手に嫌な思いをさせることをおさえ、ねらいとする価値へ方向付けを行う。
展 開	2 資料「どうしよう」を読んで、話し合う。 ○ 「ぼく」は、どんな気持ちでとんぼをとろうとしたのでしょうか。 ○ 「ぼく」は、となりの畑があらされた話をどんな気持ちで聞いていたのでしょうか。 ◎ 「ぼく」は、眠れない夜を過ごしながらどんなことを考えていたでしょう。 3 自分の生活を振り返って話し合う。 ○ 正直にできたことはありますか。そのとき、どんな気持ちでしたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>とんぼをとりたい。</li> <li>たけしに負けたくない。</li> <li>たけしに自慢したい。</li> <li>他の人かもしれない。</li> <li>ぼくがやったのかな。</li> <li>大変なことをした。</li> <li>昼間のことを言うのをどうしようか。</li> <li>黙っていよう。</li> <li>後で分かったら、叱られるので自分から言おう。</li> <li>すっきりしないから、勇気を出して言おう。</li> <li>間違っ丸がついていたので、先生に言った。点数は下がったが、正直に言ったことをほめられてうれしくなった。</li> <li>家でコップを割って、お母さんに正直に言った。「怪我がなくてよかった。」と言われてほっとした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>とんぼをとることに夢中になっている「ぼく」の気持ちに共感させる。</li> <li>両親の話聞きながらもしかしたら自分が大変なことをしたかもしれないという「ぼく」の気持ちを想像させる。</li> <li>ワークシートに自分の思いを書くことで考えをまとめさせる。</li> <li>正直に話し、誠実に行動したときの気持ちに共感させる。</li> </ul>
終 末	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからも正直に生きていきたい。</li> </ul>	○ 勇気を出して正直に言っ、よかった体験を紹介するとよい。

## 6 授業の概要

### (1) 主題について

思いがけず人に迷惑をかけてしまったとき、過ちを素直に反省し、正直に伝えないといけないということはよく分かっているが、なかなか行動に移せない児童もいる。そこで、本資料を通して、正直であることのすっきりした気持ちを知り、子どもたちが明るく生活していけるような態度を育てたい。

### (2) 自作資料活用のポイント

#### ア より身近に

「広」という名前がついたおいしいキャベツがあることを知るだけでもより身近なこととして感じるができるであろう。また、「とんぼをとる」という行為も中学年にとっては共感しやすい。

#### イ 各教科・領域との関連

明治の初め頃、アメリカに渡った人がカリフォルニアで見つけた「サクセッション」という品種のキャベツが、潮の干満のあるところでよく育つということを知り、送ってきた種が「広甘藍（ひろかんらん）」の始まりである。一時は味のよい「広甘藍」は関西方面で喜ばれたり輸出したりしていたという。近年は、グリーンヒル郷原の農業振興センターで種を保存し、伝統野菜として大切に育てられている。地域の教材として、総合的な学習の時間で取り扱ったり、社会科「くらしのうつりかわり（郷土の発展につくす）」で潮に強いという理由で広まったことなどにふれたりしておく、育てている人達の思いが伝わりやすい。

### (3) 指導過程の工夫

#### ア 導入の工夫

自分が受けた不誠実な行為を思い起こさせることで、受けた側の嫌な気持ちに共感させたい。そのことにより「ぼく」の気持ちの葛藤に共感させたい。

#### イ 展開の工夫

終末部分については、児童に自由に考えさせるため、意図的に略した。その場しのぎの嘘は、いずれ分かったり、誰かに嫌な思いをさせたりするものである。また、信頼を失うことにもなる。何よりも、「このまま言わないでいると、心がすっきりしない。」「明るく生きられない。」ということ「ぼく」の気持ちに共感させながら引き出すようにしたい。

展開後段では、自分自身、本資料の「ぼく」と同じ葛藤があったかどうか、そして、何が決め手で判断したのか、切り返しの発問をする等して、十分に振り返らせたい。

#### ウ 実践意欲を高める

正直にしているのを見て、気持ちよかったことを帰りの会などで発表させること等により、実践への意欲を高めたい。

### (4) 参考資料

「くれえばん」（2003年9月号）

（広小学校 歌田規予美）